

日本音楽集団

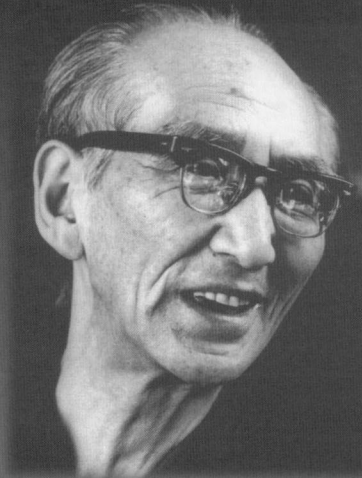
PRO MUSICA NIPPONIA



第195回定期演奏会
The 195th Regular Concert

～日本音楽集団創立45周年記念シリーズ～

現代邦楽の黎明 清瀬保二から長澤勝俊へ



2009年5月20日[水]
午後7時開演
第一生命ホール

主催：特定非営利活動法人日本音楽集団
NPOトリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール
助成：平成21年度文化庁芸術創造活動重点支援事業

■ 日本音楽集団： <http://www.promusica.or.jp/> E-mail： office@promusica.or.jp
■ NPOトリトン・アーツ・ネットワーク： <http://www.triton-arts.net>



伝統と現代

—師弟それぞれのアプローチを楽しむ

小宮多美江

(近現代日本音楽史)



45周年記念シリーズの今回は長澤勝俊とその師清瀬保二の作品とで組まれている。

長澤作品はいずれも「集団」の歴史のなかで重要な曲で、「錦木によせて」は野坂恵子により委嘱初演されて以来二十絃箏曲の名曲となっているが、今夜はふたたび現・野坂操壽の演奏ででき。「大津絵幻想」は「集団」の日本楽器による大合奏の多様多彩な展開がききどころ。

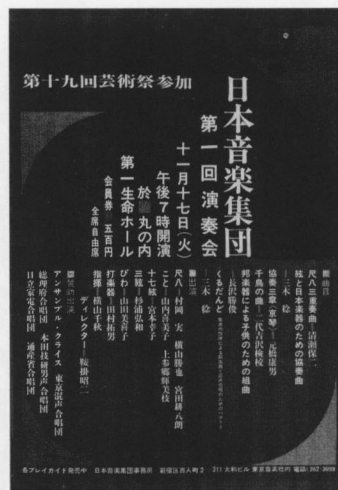
清瀬作品の「尺八三重奏曲」は、70年代前後からの尺八人口増大につれてかなり広く演奏されてきている。「日本楽器による八重奏曲」(放送初演のときは「邦楽器のための組曲・4楽章」)は、ちょうど「集団」発足前後の時期に生まれた曲で、「集団」としては今回はじめて演奏する。

現在私は清瀬保二の室内楽作品の出版(音楽の世界社)を主な仕事としていて、この「八重奏曲」の浄書も現在進行中なのだが、その協力者から「八重奏という編成は邦楽の伝統にあるものなのではないか」と問われ、あらためていろいろと気づいたことがある。

1964年秋といえば私は、訪中日本各界青年代表団に日本音楽舞踊会議代表として参加、初演されたばかりの「尺八三重奏曲」のテープを作曲家から託されて中国音楽家協会に持参したのであった。したがって11月17日の日本音楽集団第一回演奏会は聴いていないのである。

いま、その演奏会の内容をみると、清瀬保二の「尺八三重奏曲」があり、長澤勝俊の「子供のための組曲」がある。記念誌『長澤勝俊』によれば、長澤がまず東京尺八三重奏団(モダン尺八トリオ)に委嘱されて「尺八三本のための小曲」を書き、それは「子供のための組曲」の2楽章に生かされるのだが、つづけて清瀬が頼まれて書いたのが「尺八三重奏曲」なのだ。

「八重奏曲」について清瀬保二は放送のさいのインタビューのなかで、「自分は洋楽畑の人間である。近世邦楽や能楽はもちろん、邦楽の新作もきいているが、自分から書こうとは思わなかった。頼まれてやむなく書いた「尺八三重奏曲」に続いてこれを書くことになったが、作曲にあたって第一に考えたのは邦楽器を使っても洋楽におけると同じく曲の構成である。四つの楽章には、これまでのヴァイオリン・ソナタなどと同様、敗戦から今日までの日本の発展の姿、起伏もあり哀しみもあったそんな時代的に大きなものを表現したいと思った」と述べている。



さて、放送のさいのメンバーは、第1尺八と箏および十七絃は「邦楽4人の会」メンバー、あとの尺八三人は「東京尺八三重奏団」、それに篠笛が加えられた八人編成である。「やむなく」にしては、臆面もなく、とてもいいほどの大胆な編成だ。

しかし「邦楽4人の会」はすでに労音例会などでも活躍していた。ちなみにグループ名に漢数字を使わないところに意味があるとも聞いたおぼえがある。そして清瀬のその後の、「箏五重奏曲」(尺八は村岡実)と「箏四重奏曲」はかれらのレパートリーである。

それは、曲目に委嘱新作「箏四重奏曲」の初演を含む「邦楽4人の会」演奏会場でのこと。演奏者の意気込みを受け止めつつ、作曲家がまるでいたずらっ子のように「終楽章にアレグロのマーチをぶつけてあるんだよ」とつぶやいたことを私はいま思い出している。と同時に私は、60年安保を連想させずにおかない清瀬の傑作「ヴァイオリンとピアノのための二楽章」終章のマーチをも思い浮かべるのである。

おわりに、長澤勝俊の日本の伝統とりわけ民俗的な遺産との接し方について、師の場合とはちがう、ある意味での幸せを思う。清瀬が二十世紀初頭、九州は宇佐の生まれなのにたいして長澤は東京の生まれ。人形劇をはじめとするいわば現場歩きの豊富な体験は、長澤にたくまげして伝統におぼれることのない強さを持たせたといえるのではないだろうか。

これからも二人の作曲家の作品がますます多くの人々のものになるよう願っている。

司会：池田逸子

東京生まれ。東京芸術大学楽理科及び東京大学文学部美学芸術学科卒。作曲家・林光研究、伊福部昭研究、各種演奏会批評やライナーノート、岩波講座「日本の音楽・アジアの音楽」(共著)執筆などのほか、クリティーク80同人として「現代日本の作曲家」シリーズの編著を手がける。また既成の評価やジャンルにこだわらない自由な視点から、多数のコンサートならびにCDの企画・制作も行っている。

一、尺八三重奏曲 (1964年) 清瀬保二作曲

Concerto For Japanese Instruments

[尺八] I 三橋貴風 II 水川寿也 III 加藤秀和

今回は清瀬保二先生のお書きになった「尺八三重奏曲」と「日本楽器による八重奏曲」を演奏させていただくのですが、とりわけこの「三重奏曲」には自分自身にも思い出があります。

1972年に日本音楽集団が初めての海外公演(ヨーロッパ7カ国)を行ったのですが、その直前に先輩の横山勝也氏が退団され、右も左もわからない研究団員の自分に対し、スタッフ兼任で演奏に加わるようにとの命が団から下りました。そして42日間に及ぶ演奏旅行は数々のエピソードを残して無事に終了し、翌73年の三月に朝日新聞社の主催による帰朝報告公演が有楽町の朝日講堂(現・朝日マリオン)で開かれました。そのコンサートで演奏されたのが、この「三重奏曲」でした。因みにその時の第一尺八は宮田耕八朗氏でした。

勿論、この曲が作曲されたのはそれよりもだいぶ前で、1964年に当時の東京尺八三重奏団(村岡実、宮田耕八朗、横山勝也)の第一回定期演奏会で初演をされる為に、村岡氏の提案によって清瀬先生に委嘱作品としてこの曲を書いていただく事が実現したそうです。またこの時の演奏会では、その後あまりにもポピュラーな存在となった、長澤勝俊作曲の「子供のための組曲」の初演も行われました。

本日のプログラムは過去の現代邦楽の系譜をたどる上でも、貴重な演目となっていると思います。
三橋貴風

二、邦楽器のための組曲・四楽章

日本楽器による八重奏曲 (1964年) 清瀬保二作曲

Octet for Traditional Japanese Instruments

[篠笛] 竹井 誠

[尺八] I 宮田耕八朗 II 三橋貴風 III 原郷 隆 IV 阪口夕山

[箏] I 桜井智永・久東寿子 II 早川智子・高橋はるな

[十七絃] 久本桂子・佐藤里美

[指揮] 田村拓男

1964年11月23日、篠笛 福原百之助、尺八 北原篁山、村岡実、横山勝也、宮田耕八朗、箏 後藤すみ子、矢崎明子、十七絃 菊地悌子演奏で日本短波放送より放送初演。のち1974年12月15日木本勝山の「尺八十六人衆 無限界」、そのほか坂田誠山の竹生会や東京尺八合奏団などの演奏がある。日本音楽集団による演奏は今回がはじめてである。

放送初演に際しての解説より

第1楽章は全合奏によるゆっくりとした壮大な感じの序奏のあとアレグロとなり、第1尺八と第1箏とのユニゾンで第1主題が奏され発展したあと、第2尺八と第3尺八によって軽快な第2主題が経過部のようにあらわれるが、次に篠笛にあらわれる第3主題が一番発展性を持ち、コーダをもって終る。第2楽章は遅く暗く、哀愁に満ちた曲だが、ここでは篠笛が重要な役割を持つ。第3楽章は軽快でリズムでひとつの主題がいろいろの形を変えて発展していく。第4楽章は尺八の全合奏による明るく荘重な第1主題と第2楽章に現れた悲しい感じが交互に形を変えながら発展してゆき、やがて箏のリズムが主機的な機能に整えられると尺八全合奏で新たに第2主題として発展、箏もそれを受け継ぐ。その後、最初の第1主題に似た明るい第3主題が全合奏に現れ、リズムによってやや民謡風に形を変えて最高潮に達して終わる。(作曲者)

小宮多美江

三、錦木によせて～五つの小品 (1973年) 長澤勝俊 作曲

藍玉(あいだま) 萌黄(もえぎ) 茜雲(あかねぐも) 瑠璃(るり) 琥珀(こはく)

To Nishikigi-5 Showpieces

[二十五絃箏独奏] 野坂操壽

この曲は二十絃箏を制作して4年目、私のリサイタルの為に長澤さんをお願いし、1973年5月に初演しました。題名の通り五つの小品には藍玉・萌黄・茜雲・瑠璃・琥珀という名が後に作曲者によりつけられました。当時、伝統楽器で現代を、という気負いの中で、ある使命感を感じていた私でしたが、長澤さんには「皆が弾きたいと願い、又弾けるような親しみ易く美しい作品を書いて下さい」とお願いしました。あれから36年です。

初演時のプログラムには「錦木とは平安時代の和歌にみられる言葉で、恋文のかわりに一尺ほどの木をまだらに色どり、恋人の家の門に立てる風習。この曲は錦木に寄せる若ものたちの想いを幻想的に描いた小品です。錦木にたくして語られる人間のいきずかいのようなものを……」と書かれています。この銜いのない美しい小品は皆に愛され、弾き続けられ今日に至っています。

長澤さんがご自分の言葉でご自分の世界を貫かれたからこそ多くの愛好家の心を捉えるのでしょう。

邦楽ジャーナル代表の田中隆文氏は「ある日、ラジオからこの曲が流れ、学生だった私に新鮮な衝撃が走った、この道に入る原動力となった」と云われています。無垢な音楽の力に驚かされます。

長澤さんの求められた「人間の息使いのようなもの」それは演奏の在り方そのものに迄迫る命題です。穏やかな美しい世界をお届けしたいと願ってはみるもの、そしてこの境地は私の憧れの地点ではあるもの……

今日、そんな演奏が出来ますようにと願っております。

野坂操壽

野坂操壽 東京芸術大学修士課程修了。'65年第1回リサイタル、日本音楽集団団員('82年迄)。'69年二十絃箏を、'91年二十五絃箏を制作。'02年芸術選奨文部科学大臣賞。'03年紫綬褒章、二代野坂操壽襲名。'06年中島健蔵音楽賞、エクソンモービル音楽賞。現在、桐朋学園芸術短期大学教授、(社)日本三曲協会理事、他。生田流箏曲松の実會主宰。

四、大津絵幻想 (1981年) 長澤勝俊 作曲

Otsu-E Fantasy

[笛] 竹井 誠

[尺八] I 宮田耕八朗・菅原久仁義(助演) II 水川寿也・阪口夕山

III 原郷 隆・中村仁樹氏(助演)

[胡弓] 帯名久仁子(助演)

[細棹三味線] 杵家七三・守 啓伊子 [太棹三味線] 工藤哲子・山崎千鶴子

[琵琶] 久保田晶子・藤高理恵子

[箏] 久東寿子・彦坂恵美 [二十絃] 桜井智永・久本桂子

[十七絃] 宮越圭子・佐藤里美 [打楽器] I 島村聖香 II 盧 慶順

[指揮] 田村拓男

大津絵幻想は1981年に作曲され、同年の日本音楽集団第67回定期演奏会で初演されました。

作曲者本人の解説によると「大津絵とは、近江の国(現在の滋賀県)大津辺りで売られていたお土産用の民衆絵画で…元禄年間頃には当時の民衆の哀歓や世相風刺がユーモラスなタッチで大らかに画かれており…その奥深くひそんでいる民衆の誇らない自然の姿と智慧と余裕を日本楽器の音に託して表現しようと試みた」(抜粋)ということです。

名曲の「子どものための組曲」や「人形風土記」と比べても「大津絵幻想」は、邦楽器及びアンサンブルの書法が明らかに習熟度を増し、楽器の持ち味を活かしきっている印象があります。また長澤作品の多くがそうであるように「A-B-A」と、曲の初めの主題やモチーフが最後に戻って来る構成が多く、そこをどのように表現するか、も演奏する面白さ、また聴き処でもあると思います。

個人的な考えですが、日本音楽集団の演奏活動には三つの柱があるように日頃から思っています。

1) 邦楽器の先鋭的な演奏の技術、同じく楽曲の追求と創作。 2) 邦楽器のための「レパートリー曲」「財産曲目」の継承と普及。 3) アマチュアの演奏家や演奏団体の規範となるような邦楽合奏曲の演奏と、楽曲の提示を通しての啓蒙活動。

本日の演奏会は2)に相当するものだと思います。世の中が大きく変化していく中でも常に多くの方々に演奏され、鑑賞され、愛され続けている名曲の数々を聴ける喜びを、お出で頂いたお客様方と共有したいと心から思います。

川崎絵都夫

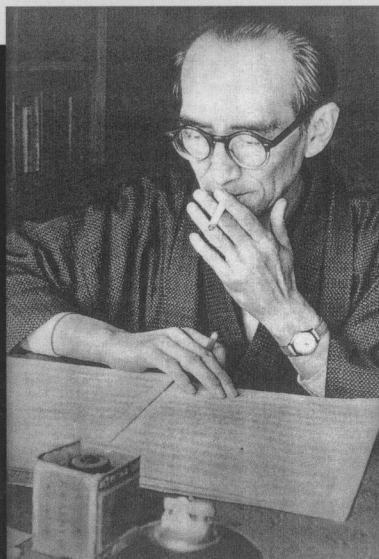
大分県宇佐郡四日市町（現宇佐市）生まれ。旧制松山高等学校在学中に作曲家を志す。1919年上京、山田耕筰、プリングスハイムに短期間師事、以後独学で昭和7年にデビュー、1934年チェレブニンにより海外に広く紹介された。

啄木の歌に若くして作曲し、幾つかの名曲を残し、日本の音を求めた多くの作品がある。1942年作曲「日本祭礼舞曲」は1981年福井謙一氏のノーベル賞授与式で演奏された。若い頃はピアニストとして主としてフランス音楽を多数紹介した。日本現代作曲家連盟初代委員長ほか各種団体役員をし、海外も何度か公式に訪問した。弟子には武満徹、佐藤敏直、仲俣申喜男、長澤勝俊がいる。

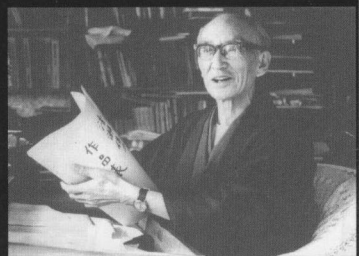


清瀬保二

(1900年1月13日～1981年9月14日)

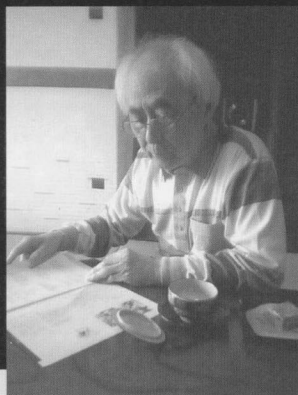


1972年清瀬保二歌曲集出版記念會にて司会の佐藤敏直氏と武満徹氏



長澤勝俊

(1923年8月2日～2008年1月10日)



1923年東京に生れる。日本大学芸術学部修了。清瀬保二に作曲を師事。1964年の日本音楽集団創立に参加。1949年以来人形劇団「ブーク」の音楽を監修。1986年歌舞伎・市川猿之助「ヤマトタケル」などの音楽を作曲。1990年紫綬褒章を受章。6回の日本音楽集団の海外公演に参加。「子供のための組曲」「組曲・人形風土記」「大津絵幻想」「萌春」「錦木よせて」他邦楽器のための作品多数。日本音楽集団の名誉代表を務める。2008年1月没享年84歳。

日本音楽集団カナダ公演レポート

この度日本音楽集団は3月4日(水)～13日(金)の10日間、カナダのアルバータ州に於いてワークショップ及びコンサートを行いました。

現地に着くなり軽い時差ぼけと屋内外の気温差に少々体調の心配はありましたが、メンバー全員大きな怪我等もなく、無事に日本に帰って参りました。

今回のこの公演の趣旨といたしまして、カナダのみなさまに日本音楽の素晴らしさを知っていただき少しでも興味を持って頂けたらという思いから、プログラムも古典ものから日本の旋律集という様々な作品を演奏させて頂きました。

最初のコンサート会場となるバンフセンターは壮大なるカナディアンロッキーを望める美しい街の広大な国立公園の敷地内にあります。

この日の演奏会中、ふと外を見ると野生の鹿が私たちの方を見ていました。しかもその時、演奏しようとしていたのは尺八の古典本曲『鹿の遠音』。ただ、残念ながら、鹿の親子は演奏を聴かずに山へと帰って行ってしまいました。このホールは、三角窓からロッキーの峰が壁に飾られた絵のごとく見える素敵なホールで、音楽を通じ大自然と人間の共存を実感することができました。

次の地、カルガリーではカルガリー大学内のホールにて西川氏の旧友、カナダ在住のバイオリニスト高橋敬子氏との共演をいたしました。この日のコンサートには日系人協会のたくさんの方々や団体バスをチャーターして足を運んでくださり、一曲一曲終わるごとに客席から我々に向けて大きな拍手と素敵な笑顔を向けてくださったり、演奏会後のロビーでは優しいお声をたくさんかけて頂きました。

特にアンコールで高橋氏を交えた赤とんぼの演奏に涙を流す方も見受けられ、日本を懐かしむ日系人のみなさんの心に触れることができ、温かい気持ちになりました。

そして最後の地エドモントンではアルバータ州立大学のホールにて、ワークショップ、そしてコンサートと2日間演奏いたしました。

今回のカナダ公演を取りまとめてくださった下野氏の計らいで、こちらの大学で民族音楽学を専攻する学生さんとの懇談会を開いていただき、箏や尺八、三味線を弾いてみたいという学生さんには、直に楽器に触れてもらいました。

個々の日本楽器の伝来について現代の奏法や掛け声の意味など、和やかな雰囲気の中、多くの疑問質問が飛び交い、日本音楽への興味や関心の深さを身を以て感じることができました。又、この懇談会を通じて私自身、日本音楽集団の団員としてこれからのビジョンを考えるととても素晴らしい機会を与えて頂いたように思います。

毎公演ともスタンディングオベーションで幕を閉じ、5人の奏者の息がカナダの皆さまの心へと通じたような深い感動を抱きました。全てが人と人とのつながり、出会い、支え合い、実りある素晴らしい公演となったと自負しております。

最後になりますが、この公演にご尽力賜ったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

多田恵子



参加メンバー

笛:西川浩平
尺八:元永拓
三味線:山崎千鶴子
箏:山田明美
打楽器:多田恵子
ステージマネージャー:IMS 古川尚人
ゲスト:ヴァイオリン:高橋敬子

助成:国際交流基金、エドモントン日本領事館、アルバータ州立大学、エドモントン高宮宮日本センター基金、他。

公演日:3月6日(金)バンフ Banff Centre コンサート

8日(日)カルガリー Boris Roubakine Recital Hall コンサート

10日(火)エドモントン Convocation Hall ワークショップ

11日(水)エドモントン Convocation Hall コンサート

演奏曲目

- Aプロ
・斑鳩へのみち 長澤勝俊 ・和楽器による映像 小曲のメドレー ・さらし幻想曲(ヴァイオリン助演) 中能島欣一
・新八千代獅子 日本音楽集団編 ・上弦の曲 沢井忠夫 ・調べ〜横笛独奏 古典曲より
・太鼓の曲 柁屋正邦 ・3つの異郷の歌 吉松隆 ・赤とんぼ、ひよっこ(アンコール)
- Bプロ
・斑鳩へのみち 長澤勝俊 ・和楽器による映像 小曲のメドレー ・新八千代獅子 日本音楽集団編
・秋の曲 三木稔 ・去来 柁屋正邦 ・颯踏 長澤勝俊 ・3つの異郷の歌 吉松隆
・赤とんぼ、ひよっこ(アンコール)

特定非営利活動法人日本音楽集団

【正会員】(団員)(楽器別・五十音順)

笛 宮田耕八朗
越智成人 元永拓
竹井誠(尺八) 米澤浩
西川浩平 渡辺淳

笙 胡弓
真鍋尚之 畦地啓司(作曲)
多々良香保里

箏 三味線
西原祐二 杵家七三
工藤哲子

尺八 藤和 山史 隆
加藤秀和 阪口夕浩 添川浩史 原郷隆 藤崎重康(笛) 水川寿也 三橋貴風
田中悠美子 穂積大志 簗田弘大 簗田司郎 守啓伊子 山崎千鶴子

琵琶 久保田晶子
首藤久美子 田原順子 細川華鶴子

箏 大畠菜穂子
久東寿子 熊沢栄利子 桜井智永 佐藤里美 島崎春美 城ヶ崎美保 高橋はるな 田村法子 早川智子 彦坂恵美 久本桂子

前川美保子
松下知代 丸岡映美子 三宅礼子 宮越圭子 山田明美 吉村七重子 渡辺正子

打楽器 白杵美智代
尾崎太一 黒坂昇 島村聖香 仙堂新太郎 高橋明邦(指揮) 多田恵子 望月太喜之丞 盧慶順 若月宣宏

指揮 康 田村拓男 田村文生

作曲 秋岸寛久 尾形敏幸 川崎絵都夫 福嶋頼秀

楽器・舞台 中島隆

代表 田村拓男
副代表 尾崎太一

運営委員 秋岸寛久 越智成人 西川浩平 原郷隆 簗田司郎 望月太喜之丞 米澤浩

監事 宮田耕八朗 今井隆夫

事務局 中山美穂子 百武幸子
永久名誉団員 長澤勝俊

2009年4月現在

【賛助会員】(五十音順)

法人 (株)全音楽譜出版社 (株)宮本卯之助商店 NPOトリトン・アーツ・ネットワーク

個人 青柳堯 棚野正士 安達真五 土井恵見 新井克輔 水野正徳 江西緑 宮川慶子 大関富枝 渡辺邦子 太田颯衣 渡辺治子 大塚悦子 川壁正 岸彰則 後藤陽子 佐藤利明 四反田素幸

【協力会員】(五十音順)

名誉団員 坂田進一 坂井敏子 白根きぬ子 野坂恵子 宮本幸子
団友 青木誠 秋浜悟史 荒谷俊治 伊藤惣一 稲垣隆史 大窪悦子 川崎祥悦 菊地悌子 楠知子 鞍掛昭二 鯉沼廣行

星旭 細谷一郎 増田睦美 望月太左衛 望月太八 元橋康男 矢崎明子 柳家小三治 横山勝也 吉沢昌江 デイヴィッド・ローブ デイヴィッド・ヒューズ ヘンリー・バーネット ラニィ・シェルダン 王燕樵 張曉輝

地方支部 道東支部 谷藤 彌 道東支部 竹馬 亘 水戸支部 斎藤 幸山 山梨支部 郷 晃 長野支部 佐藤 幸字山 新潟支部 飯吉 正山 愛知支部 山田 孝子 愛媛支部 渡辺 治子 福岡支部 安武 由香理 熊本支部 古川 安春

2009年4月現在

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 個人会員10,000円(一口以上) 法人会員30,000円(一口以上)

詳細は日本音楽集団事務局までお問い合わせ下さい。
またホームページにおいても、お申し込み方法など詳しくご案内しております。

特定非営利活動法人
日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
ホームページ <http://www.promusica.or.jp/> E-Mail office@promusica.or.jp

日本音楽集団 夏期講習会

日本音楽集団から生れた合奏曲の名曲を日本音楽集団指揮者田村拓男や、作曲者の指導のもと団員と共に、合奏体験してみませんか？演奏家との合奏を通して、楽譜だけでは分らない演奏のコツ、フレーズの歌い方など、演奏技術のレベルアップを目指しましょう!!

日程：2009年8月1日(土)～8月2日(日)

時間：各日10:00～18:00(打楽器は9:30開始)

会場：大日本家庭音楽会 神田スタジオ

(打楽器は午前中、別会場で練習し、午後から移動して合奏講習となります)

講習会
曲目

- 1日：邦楽器のためのコンポジション(秋岸寛久作曲)
編成：笛、尺八2、三味線、琵琶、箏3、十七絃、打楽器
2日：秋の一日(長沢勝俊作曲)
編成：笛、尺八、三味線、琵琶、箏2、十七絃、打楽器

募集楽器：

箏・十七絃・三味線・尺八・篠笛・琵琶・打楽器

受講料

2日間受講 箏・十七絃 18,000円(含・貸箏代)
／その他の楽器 15,000円

1日受講 箏・十七絃 10,000円(含・貸箏代)
／その他の楽器 8,000円

見学のみのみ 各日2,000円

(学生割引有：2日間受講は2,000円引、1日受講は1,000円引)



アイ・エム・エス

●楽器リース ●保管 ●移動 ●ステージ・スタッフ派遣

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうでんビル

PHONE. 03-3397-2292

FAX. 03-3397-7728

URL : <http://www.ims-tokyo.co.jp>

E-mail : ims-mail@ims-tokyo.co.jp

粋に愉しむ

株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15

TEL 03(3792)8481 FAX 03(3792)8437

URL : <http://kinko-do.com/>

E-mail : tokyo@kinko-do.com